

漢文 論語・史話(二)

論語 「人間を見つめる」

理解を深めるために

■学習のねらい■

『論語』の二回目。「人間」についてです。今回の学習では、まず『論語』とはどのような書物なのかを学びます。そして、実際に「人間」に関する三つの文章を読み味わうことで、孔子が理想とした人間とはどういう人なのか、人間はどうあるべきなのか、つまり「孔子の人間観」について理解を深めていきましょう。

*

*

*

『論語』とはどんな書物なのでしょうか

『論語』は、孔子とその弟子たちが、話したり、行ったりしたこと、そして問答などが、主な内容になっています。孔子の死後、門人たちの手によってまとめられました。『論語』の章句は、一般的には約五百あると言われていますが、それが二十のまとまりに分けられていて、それぞれ名前(編名)がつけられています。『論語』は、『古事記』によると、今から一七〇〇年くらい前の応神天皇の時代に、百済の博士である王仁^{わに}によって日本に伝えられました。日本に入ってきた中国の書物としては最古のものになります。

やがて、日本でも『論語』は必読書の一つになり、平和が続いた江戸時代には、幕府の教育政策のもと、学者はもとより寺子屋で学ぶ子どもに至るまで、多くの人に読まれるようになりました。

「人間」について述べた三つの文章を読み味わいましょう

(一) 曾子曰、「吾日三省吾身。為人……」

☆曾子が、いかに誠実で努力家であったことがわかる章句です。

●ポイント 「忠」「信」は「仁」に達するための重要な手段。

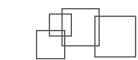
・「忠」……真心を尽くすこと。

・「信」……誠実であること。



講師

渡辺恭子



(2) 子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」

☆仁者は、自分にも他人にも、誠実でなければなりません。

●ポイント 「仁」・「巧言令色」を学びましょう。

・「仁」……孔子が最高の徳としたもの。深い人間愛。

・「巧言令色」(四字熟語) ……見せかけだけで誠実さのないこと。

(3) 廐焚。子退朝曰、……

☆孔子が、なによりも人を重んじたことを示すエピソードです。

●ポイント 孔子が、高価な馬よりも人の身を案じたこと。

・「人を傷(そこ)なへりや」(「疑問」を表す) ……「人に怪我はなかったかね。」と訳しましょう。

「孔子の人間観」についての理解を深めましょう

ここでのキーワードは、「仁」と「忠」と「信」です。

「仁」とは、孔子が目指した、人間として最も理想的な生き方です。「深い人間愛」を意味するといわれています。

もう一方のキーワード「忠」と「信」ですが、「忠」とは、「他人のために、自分の真心を尽くすこと」でした。また、「信」とは、「嘘偽りのない誠実さ」、もつとわかりやすくいうと、「言うことと行うことが一致していること」です。自分の言葉に責任を持ち、言った言葉や約束をどこまでも守り通す、そんな誠実な生き方をいいます。つまり、「忠」や「信」といった態度は、「仁」に達するための重要な手段なのです。孔子は、個人個人が「仁」を身につければ、人間愛にあふれた、理想的な社会が出来ると考えていました。

論語——八章

講師
渡辺恭子

人間を見つめる

曾子曰、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。与朋友交而不信乎。传不習乎。」

〔学而〕

子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」

〔学而〕

厩焚。子退朝曰、「傷人乎。」不問馬。

〔郷党〕

【書き下し文】

①曾子曰はく、「吾日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と交はりて信ならざるか。習はざるを伝ふるか。」と。

②子曰はく、「巧言令色、鮮なし仁。」と。

③厩焚けたり。子朝より退きて曰はく、「人を傷なへるか。」と。馬を問はず。

【現代語訳】

①曾先生がおっしゃった、「私は一日のうち何度も自分自身を反省する。人の相談にのってあげながら、まごころを尽くさないことはなかったか。友達と交際して、誠実でなかったのではないか。身につけていない生かじりのことを、人に教え伝えることはなかったか。」と。

②先生がおっしゃった、「巧みな弁舌や、取り繕った表情の人には、少ないなあ本当の仁の心は。」と。

③(孔子の家の)厩が焼けてしまった。(孔)先生は朝廷から退出して、(家に)帰ってきた。そしてすぐに言うことに、「人にけがはなかったか。」と。(その後、)馬のことについては(何一つ)尋ねなかった。